

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第5週)

(令和8年1月26日～令和8年2月1日)

令和8年2月5日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年	2024年
区 分	疾 病 名	2週	3週	4週	5週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	4.33	17.33	11.00	26.00	—	—	—
		13	52	33	78	204	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	3.67	4.33	3.00	5.67	—	—	—
		11	13	9	17	58	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	—	0.50	—	1.00	—	—	—
		0	1	0	2	3	156	309
	咽頭結膜熱	1.00	—	—	—	—	—	—
		2	0	0	0	2	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	1.50	2.50	1.50	—	—	—
		5	3	5	3	17	243	657
	感染性胃腸炎	5.50	4.50	4.00	5.00	—	—	—
		11	9	8	10	39	430	610
	水痘	—	0.50	—	—	—	—	—
		0	1	0	0	1	10	6
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	—	0.50	—	—	—	—
		1	0	1	0	2	59	182
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	4	19
	流行性耳下腺炎	—	—	0.50	—	—	—	—
		0	0	1	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1.00	—	1.00	—	—	—	—
		1	0	1	0	2	16	1
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	2.00	1.00	—	—	—	—	—
		2	1	0	0	3	42	16
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	—	1.00	—	—	—	—	—
		0	1	0	0	2	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	—	—	6.00	3.00	—	—	—
		0	0	6	3	10	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	51.67	64.00	85.33	113.33	—	—	—
		155	192	256	340	1,079	8849	—
全数報告	百日咳	3	0	0	0	3	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	<u>インフルエンザ</u> の流行が見られます。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しました。 本県における令和8年第5週の定点当たり報告数は33。02と、3週連続で前週の報告数を上回りました。前週に注意報が発令されましたが、第5週で定点当たり報告数が30を上回ったため、再び警報が発令されました。B型の報告数が約9割を占めています。インフルエンザウイルスに感染すると、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。B型の流行が見られることから、今シーズンで既に罹った方も再感染する恐れがあります。今後の急激な感染拡大を防ぐため、引き続き基本的な感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しました。 2週連続で増加しており、全国と比べると報告数が多い状況にあります。他疾患と同様、基本的な感染対策の徹底をお願いします。
RSウイルス感染症	相双地域は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は横ばいです。 昨年の同時期より多い状況です。RSウイルス感染症はRSウイルスによる呼吸器感染症です。飛沫感染や接触感染により感染し、4-6日の潜伏期間の後、風邪様症状等、様々な症状が生じますが、特に1歳未満の乳幼児の初感染では気管支炎、肺炎等症状が重くなる場合があります、注意が必要です。インフルエンザと同様、基本的な感染対策が重要です。また、重症化予防には妊婦や60歳以上を対象としたワクチンが有効です。
急性脳炎	県内で2名報告がありました。 急性脳炎は様々な病原体により脳に炎症を来す疾患の総称です。インフルエンザウイルス、単純ヘルペスウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルス等のウイルスが原因となる場合があります。多くは病原体による感染症の症状が先にありますが、その後、高熱、意識障害、けいれん等の急性脳炎の症状が現れます。

引き続き感染拡大を防ぐため、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策の継続をお願いします。
福島県では、夜間や休日に急な病気や怪我でどうすれば良いか迷った時に、対処方法や受診可能な医療機関について相談できる相談電話窓口があります。
「#7119」福島県救急電話相談 「#8000」福島県子ども救急電話相談 にご相談ください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第5号